

会員の広場



世界遺産と昆虫と山野草（その2）

外山 興三（東京）

昨年は一寸縁があつてグアテマラにまず行って世界遺産のマヤ遺跡を幾つか尋ねた。人間というのは天に憧れるのか、エジプトのピラミッドには及ばないが、当時の皇帝は高い建造物を作った。しかし、マヤ文明はどうも人身御供の話とかが出てくるので、自分にはなじめない。ホンジュラスにも入った。両国とも治安の悪いことは予め知っていたが、なるほど観光客が行かない方がよい場

所は多いようだ。しかも、行く直前に首都に近い火山が大噴火して近くの村々が壊滅、自然と人間同士の争いの不幸という厳しい現実を視てきた。例のアメリカとメキシコの国境問題もあり、中米はこれからも大変だろう。

さて、グアテマラに行ったならコスタリカに行かない手はない。コスタリカは、一飛び3時間くらいだ。コスタリカは、鳥でも有名だが、虫の宝庫でもあり、蝶などは日本の10倍近く種類がいるらしい。蘭とかのきれいな山野草も多い。また比較的治安もよい。当然、世界遺産も沢山ある。幸いにも人の紹介で、現地の昆虫研究家の西田賢司さんという人に熱帯雨林を案内してもらった。

西田さんは、NHKの「ダーウィンが来た」という番組にコスタリカの不思議な虫達の紹介で出演した人だ（昨年8月放映）。何しろ新種をすでに千匹単位で発見したというから凄い。西田さんの

研究室も見せてもらったが、部屋じゅう上から下まで虫の幼虫や卵が入った袋やら箱ばかり。私は自分の山荘でも小規模ながら時々やっているが、ライトトラップという、白い天幕を張った後ろに強烈なライトをつける虫の蒐集方法があり、夜にやると面白い。西田さんにもやつてもらったが、カプトムシなどいろいろな虫が飛んできて面白かったが、やはり蛾が多かったな。西田さんに言わせると満月のときは周囲が明るすぎて虫の集まりが悪いとか。

溪流沿いの崖に小さな穴があると草の茎を突っ込んでみる。出てくるのは猛毒の蜘蛛タランチュラだ。動物類も勿論多く、ナマケモノには20センチくらいまで顔を寄せてみたが、オマエダレ？ってな感じだったな。コスタリカの土産は、当然ながら金緑に輝くモルフオ蝶である。特定の種類ながら空港でも売っている。私の山荘には何と50年も

前に貰ったブラジルのモルフオ蝶が、また東京の自宅には今回のコスタリカのモルフオ蝶が飾ってある。数年前にマレーシアのコタキナバル（世界遺産）に行ったときは、金緑のコガネムシを手に入れた。有名なトリバナアゲハなどは、ワシントン条約で輸出禁止なので、今は持つて来られないが、珍蝶維持のため当然だ。コタキナバルではコーカサスオオカブトという大きなカブトを実際に見たかったが、残念ながら機会がなかった。

ところがなんとということだ、上信越道の佐久バラダの昆虫館で生きたこのオオカブトが飼育されており、手の平にも乗せることが出来る。孫を連れていったら半分怖がり、半分嬉しそうだった。なにしろデカイ。標本も手に入れて飾ってある。数万年前のアンモナイト化石もロンドン郊外のジュラシックコースト（世界遺産）で手に入れて飾ってある。